

平成27年7月27日(月)

老球の細道 149

挨拶の効用

会津バスケットボール協会 室井 富仁

先日、須賀川バスケットボール協会の「バスケットボールサマーキャンプ」に呼ばれてシュートクリニックを行ってきた。この地区でクリニックすると小学生のかわいい子どもたちが皆握手の挨拶で私を迎えてくれる。常に変わらない習慣である。指導者の挨拶哲学が子ども達や保護者に浸透しているのだろう。

今は昔、授業に行くと、わがバスケットボール部員は私の前まで来てきちんと挨拶をしてきていた。保健の授業においては、わざわざ教卓まで来て挨拶をしてくれる。このような心配りがあって授業にも元気よく取り組めた。特に、大会で負けてしまった翌日の授業などは、気持ちの切り替えにおおいに助けてもらっていた。思えば生徒様々だった。

そもそも「挨拶」という字の「挨(あい)」は「心を開く」という意味で、「拶(さつ)」は「相手に迫る」とか「その心に近づく」という意味がある。要するに、挨拶とは、自分の心を開くことで相手の心を開かせ、相手の心に近づいていく積極的な行為である。「心と心の架け橋」の挨拶がないと良い人間関係は作れない。良い人間関係が作れなければ良い授業はできないし、良い練習も、良い試合も不可能である。すべては挨拶から始まる。

日常生活での挨拶は「おはようございます」から「失礼いたします」まで色々あるが、バスケットボールの部活動に特化した挨拶の効用を確認したい。

【あいさつ1】

放課後練習コートに入場。大きな声であいさつ。「こんにちは!」「お願いします!」。授業モードから部活モードへ心切り替えができる。あいさつはチェンジングアクション(心の切り替え)。集中した練習をするための心の準備ができる。

【あいさつ2】

単調な毎日、面白くない日や憂うつな日もあるだろう。人間関係がうまくいかない日もある。そんな時でも練習はしなければならない。チーム全員で円陣を組んで練習前の元気なあいさつをする。気持ちの切り替えができ、「よし、やるぞ!」という気持ちをつくる。明るく元気なあいさつは戦闘モードに人間を変え、奇跡を起こす。

【あいさつ3】

試合前の元気なあいさつ。勝つための心理的な準備をすると同時に、相手へのリスペクト(尊敬)を形で表す。ライバルは自分を鍛えてくれる最高の友だから。

【あいさつ4】

保護者、コーチ、関係者への「お願いします!」「ありがとうございました!」のあいさつ。感謝の気持ちをあらわす。あいさつのできない、心を開けないプレーヤーには残念ながらどんなすばらしいメッセージも届かない。誰も応援をしてくれない。

【あいさつ5】

チームメイトへのあいさつ。燃えている人にみんなが集まる。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」というチームワークをあいさつがプロデュースする。

たかが挨拶、されど挨拶。先手必勝で誰よりも先に声をかけ、相手の目を見ながらすべての人に。先輩、後輩など上下関係など一切関係なし。挨拶は教養なのである。